

2025年3月期第1四半期 業績概要

杉田 俊一

アンリツ株式会社
取締役 常務執行役員

2024年7月31日



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

(ノート部記載なし)

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目 次

1. 事業概要
 2. 2025年3月期第1四半期 連結決算概要
 3. 2025年3月期 通期業績予想（連結）
 4. 当社の取り組みについて
- Appendix：用語集

(ノート部記載なし)

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ◆ モバイル市場：5G、5G活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食と医薬品の安全・安心

- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場



環境計測事業

脱炭素社会を目指して

- ◆ EV/電池試験市場
- ◆ ローカル5G導入支援



その他

- ◆ センシング & デバイス
- ◆ その他



(セグメント別売上比率)

2024年3月期 実績（連結）：1,100億円

通信計測 64%			PQA 23%	環境計測 7%	その他 6%
モバイル 42%	ネットワーク・インフラ 36%	エレクトロニクス 22%			

2025年3月期 1Q実績（連結）：252億円

通信計測 67%			PQA 22%	環境計測 6%	その他 5%
モバイル 41%	ネットワーク・インフラ 37%	エレクトロニクス 22%			

(通信計測事業 地域別売上比率)

2024年3月期 実績

日本 16%	アジア他 38%	米州 26%	EMEA 20%
--------	----------	--------	----------

2025年3月期 1Q実績

日本 15%	アジア他 41%	米州 28%	EMEA 16%
--------	----------	--------	----------

(ノート部記載なし)

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 受注：13%増、売上：11%増収、営業利益：7億円の増益、当期利益：5億円の増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	230	260	30	13%
売上高	227	252	25	11%
営業利益	△1	6	7	-
税引前利益	4	13	9	194%
当期利益	2	7	5	197%
当期包括利益	34	34	0	1%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

グループ全体の受注高は前年同期比13%増の260億円、売上高は前年同期比11%増の252億円となりました。営業利益は前年同期比7億円増の6億円、当期利益は前年同期比5億円増の7億円で、増収増益となりました。

なお、当期包括利益は、前年同期比1%増の34億円となりました。

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 前年同期比で、通信計測、PQA、環境計測ともに増収増益

国際会計基準(IFRS)		(単位：億円)			
		前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	152	168	16	11%
	営業利益	4	6	2	43%
PQA	売上高	54	56	2	4%
	営業利益	0	1	1	538%
環境計測	売上高	8	15	7	81%
	営業利益	△3	△1	2	-
その他	売上高	14	13	△1	△1%
	営業利益	1	3	2	361%
調整額	営業利益	△3	△4	△1	-
合計	売上高	227	252	25	11%
	営業利益	△1	6	7	-

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）
(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

通信計測事業は、生成AIの普及拡大によるデータセンター等でのネットワーク高速化に向けた測定需要が堅調に推移し、売上高は前年同期比11%増の168億円、営業利益は前年同期比43%増の6億円（営業利益率3.6%）の増収増益となりました。

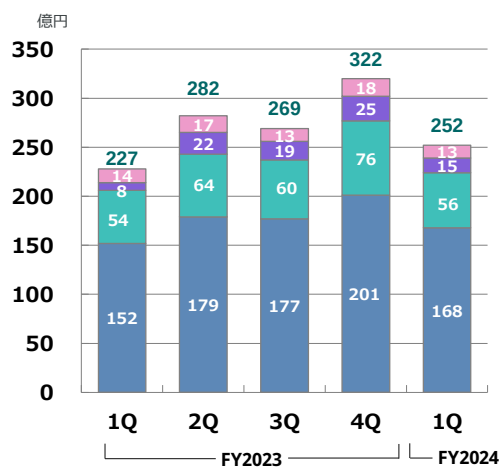
PQA事業は、食品市場の品質保証プロセスの自動化、省人化を目的とした設備投資需要が堅調に推移し、売上高は前年同期比4%増の56億円、営業利益は前年同期比1億円増の1億円（営業利益率2.3%）の増収増益となりました。

環境計測事業は、国内においてEV/電池向け試験需要が堅調に推移し、売上高は前年同期比81%増の15億円、営業損益は前年同期比で2億円改善の△1億円で増収増益となりました。

その他の事業では、売上高は前年同期比1%減の13億円、営業利益は前年同期比2億円増の3億円（営業利益率23.5%）の減収増益となりました。

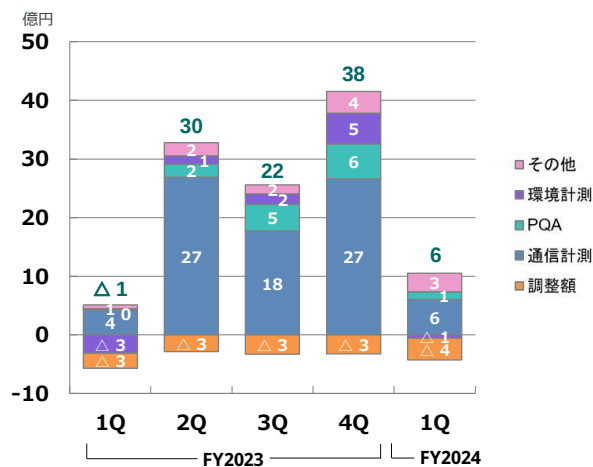
2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 1Q(4-6月)営業利益率：連結 2.5%、通信計測 3.6%、PQA 2.3%



売上高

(注) 値はそれぞれで四捨五入



営業利益

第1四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	6億円（営業利益率：2.5%）
通信計測	6億円（営業利益率：3.6%）
PQA	1億円（営業利益率：2.3%）
環境計測	△1億円

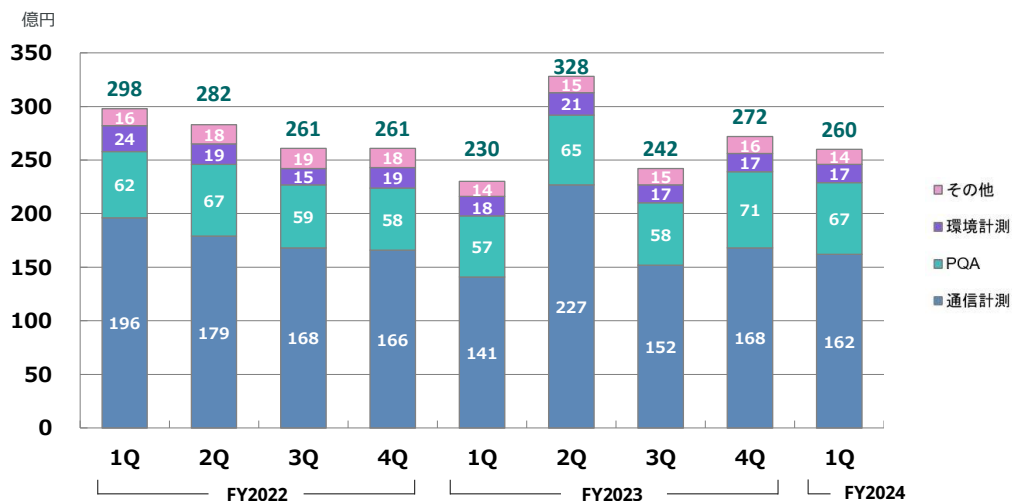
2-4. 事業別営業概況

セグメント 2025年3月期（4-6月）の状況	
➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開も、投資への慎重姿勢が継続 固定ネットワークの高速化需要は順調	
モバイル	5G開発市場の投資は不安定も需要は継続
ネットワークインフラ	グリーンデータセンターや生成AI専用のデータセンターの構築が加速
エレクトロニクス	6G基礎研究がスタート
アジア他・日本	中国の5Gスマホ開発市場の投資停滞もデータセンター関連市場が活況
アメリカ	生成AI等の好調によりデータセンター市場が活況 基地局建設・保守市場が低調
➡ PQA：米州を中心に海外での需要が堅調。国内ではインバウンド関連需要は好調	
➡ 環境計測：EV/電池向け試験装置の需要が堅調	

(ノート部記載なし)

2-5. 受注高推移

▶ 前年同期比 通信計測：15%増、PQA：18%増、環境計測：8%減

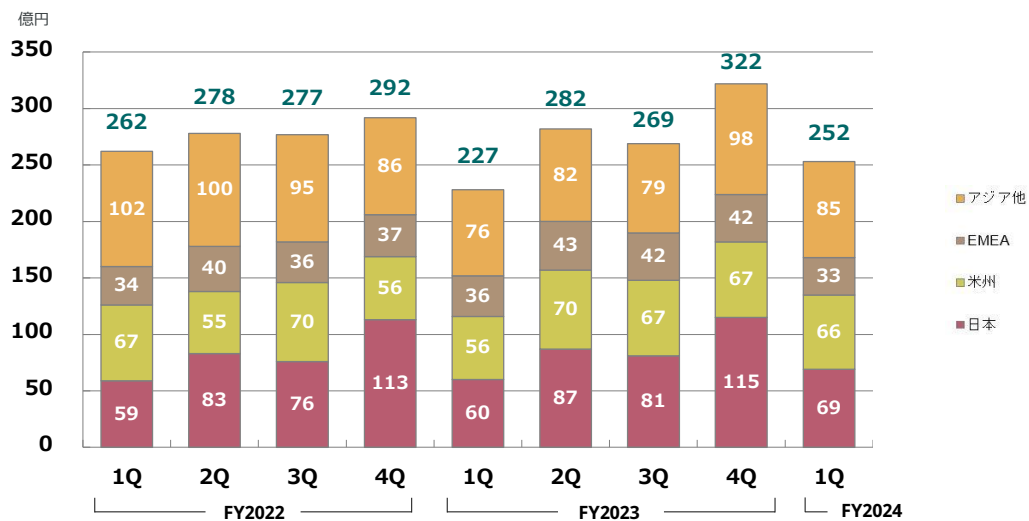


(注) 値はそれぞれで四捨五入

第1四半期のセグメント毎の受注高は、それぞれ前年同期比、通信計測事業では15%増の162億円、PQA事業では18%増の67億円、環境計測事業では8%減の17億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体では368億円（前年同期比1%減）、通信計測事業では238億円（同1%増）、PQA事業では80億円（同13%増）、環境計測事業では39億円（同21%減）となりました。

2-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

(ノート部記載なし)

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 15.2%

FY2024 (4-6月)

①営業CF： 38億円

②投資CF： △8億円

③財務CF： △29億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 31億円

現金同等物期末残高

472億円

有利子負債高

73億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳 (単位：億円)

売上債権	24		
減価償却	15		
棚卸資産	7		
税引前利益	13		
税金	△11	設備投資 △8	配当金 △26
仕入債務	△10		その他 △3
営業CF	38	投資CF △8	財務CF △29

営業キャッシュフローは、38億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、8億円の資金支出となりました。

その結果、フリー・キャッシュフローは31億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、29億円の資金支出となりました。主なものは、配当金の支払い26億円（期末配当分 1株20円）です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より15億円増加の472億円となりました。

3. 2025年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月25日公表値から変更なし

（単位：億円）

		2024/3期	2025/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,100	1,150	50	5%
営業利益		90	110	20	22%
税引前利益		100	110	10	11%
当期利益		77	83	6	8%
通信計測	売上高	710	738	28	4%
	営業利益	75	92	17	22%
PQA	売上高	254	267	13	5%
	営業利益	13	19	6	47%
環境計測	売上高	74	90	16	21%
	営業利益	5	7	2	30%
その他	売上高	61	55	△ 6	△ 10%
	営業利益	8	4	△ 4	△ 51%
調整額	営業利益	△ 12	△ 12	0	-

（参考）FY23 為替レート : 1米ドル145円、1ユーロ157円
FY24 想定為替レート : 1米ドル145円、1ユーロ155円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

2025年3月期の通期業績の見通しは4月25日の公表値から変更はありません。

4.当社の取り組みについて

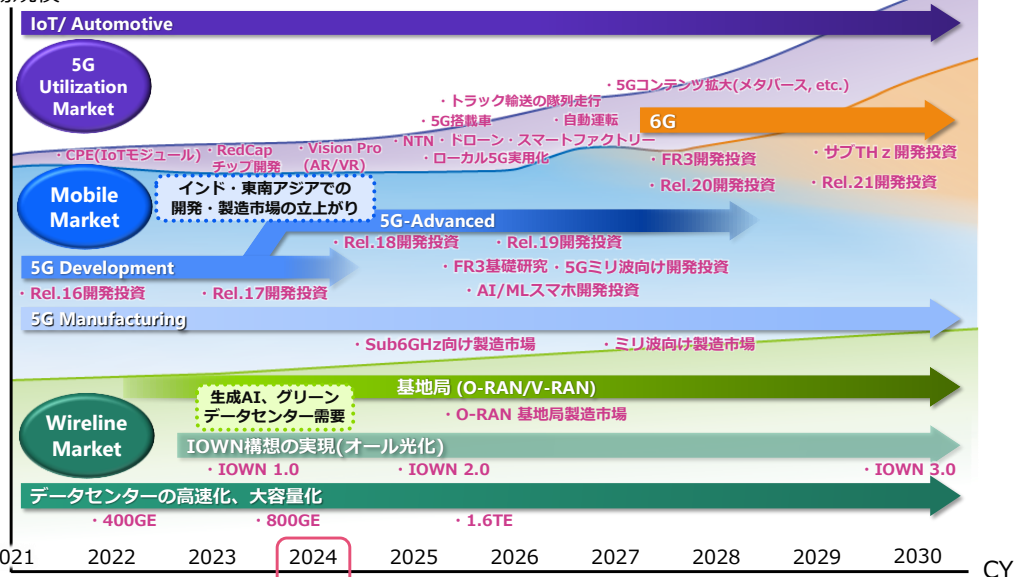
濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

(ノート部記載なし)

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



2021年以降スマートフォン市場は、世界的に出荷台数の減少が継続しており、5Gスマートフォン向けの計測器市場は緩やかに減少してきました。

しかしながら、5G利活用分野に係る計測器市場はこれからも緩やかに成長するとみており、今後、5Gスマートフォン向け計測器市場の復調により、5G計測器市場は2027年頃までは継続すると見込んでいます。

また、6Gでの使用を見据えた周波数帯FR3（7GHz-15GHz）が、WRC-23で決まり、韓国、アメリカでは、6Gの実現に向けた研究がスタートしています。

6Gについては、2030年のサービス開始を目指し、3GPPリリース21で標準化される予定であり、計測器需要は2027年頃から本格的に立ち上がると考えています。

2023年に登場した生成AIにより、データセンターの新設や大容量化が加速しています。生成AI向けのデータセンターにおいては、800GEネットワークへの更新が本格化してきています。さらに1.6TEの高速化要求も前倒しされており、その先のオール光化など、ネットワークの高度化に向けた動きがネットワーク向けの計測器需要を牽引すると考えています。

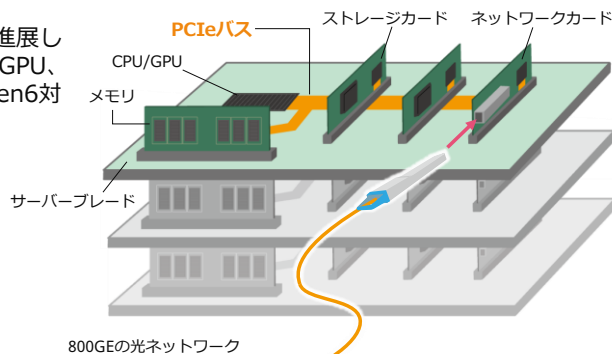
4-2. サーバー内高速化のための開発向けソリューション

サーバー内通信の高速化に向けて、PCIe Gen6に対応

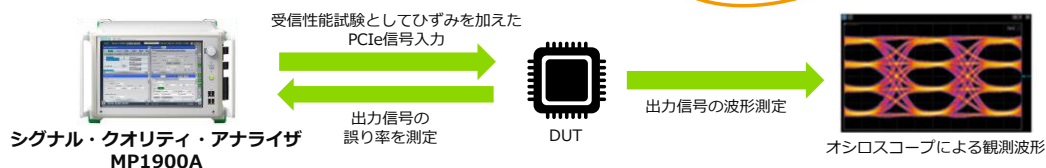
サーバー間の光ネットワークとして、800GE化が進展している。これに伴い、サーバーブレード上のCPU/GPU、メモリ、各種モジュール間の高速通信にPCIe Gen6対応が進められている。

MP1900Aの強み：

- ・自社内製デバイスを使用することで高い波形品質の出力信号を実現
- ・Gen6が要求するLink Training（ループバック試験）プロトコルに対応（業界初*） *：アンリツ調査による



データ誤り率と波形品質の評価に使用



(ノート部記載なし)

4-3. ネットワークの高速化に向けたモジュール製造向けソリューション

Anritsu
Advancing beyond

生成AIの普及によるデータセンターの大容量化に伴う光トランシーバー評価に対応



ANRITSU CORPORATION

Financial Results FY2024 1Q

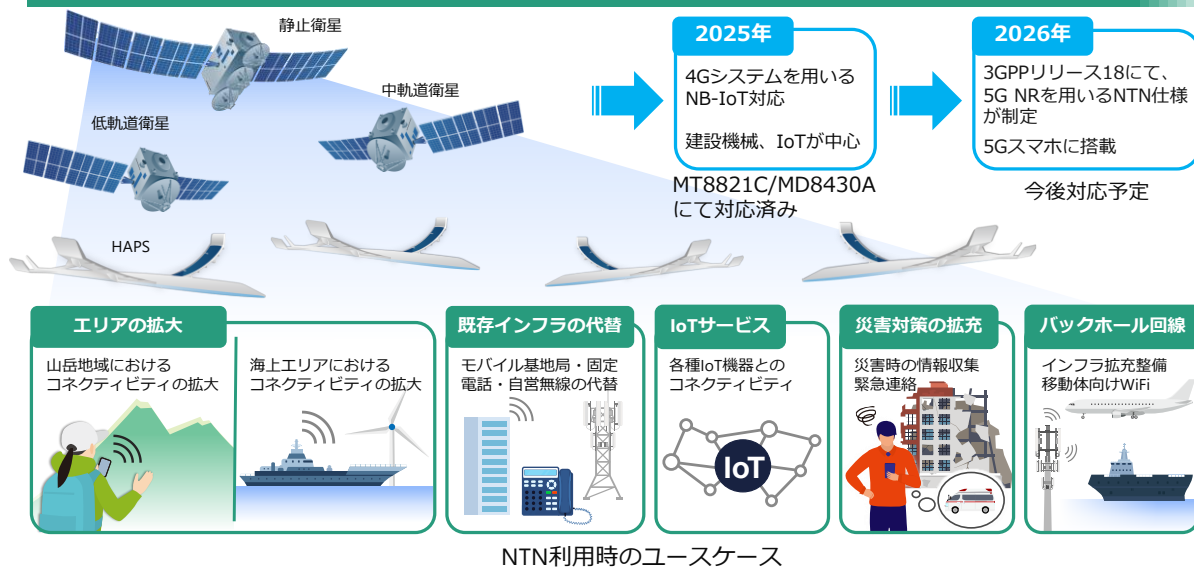
16

(ノート部記載なし)

4-4. 衛星やHAPSを用いたモバイル通信のための開発向けソリューション

Anritsu
Advancing beyond

衛星やHAPSを用いたモバイル通信サービス実現に向けNTN規格に対応



(ノート部記載なし)

4 - 5. サステナビリティ目標（SDGs）の結果				Anritsu Advancing beyond
	KPI	GLP2023の目標	2023年度実績	結果
E 環境	● 温室効果ガス*1 (Scope1+2)	2015年度比 23%削減	36.6%削減	◎
	● 温室効果ガス*1 (Scope3)	2018年度比 13%削減	38.8%削減	◎
	● 自家発電比率（PGRE 30*2）	13%以上（2018年度電力消費量を基準）	10.4% (参考：2020年度実績 3.3%)	△
S 社会	● 女性の活躍推進	女性管理職比率15%以上	12.1%（グローバル、2024年4月1日） (参考：2021年3月末実績 10.8%)	△
	● 高齢者活躍推進	70歳までの雇用及び新処遇制度確立	70歳までの雇用及び新処遇制度運用継続	○
	● 障がい者雇用促進	職域開発による法定雇用率2.3%達成	障がい者雇用率2.66%（2024年3月末）	○
	● サプライチェーンDDの強化	3年累積10社以上	3年累計で20社実施（2023年度は8社実施）	◎
	● CSR調達に係るサプライヤへの情報発信2回/年以上、教育1回/年以上		情報発信3回、教育2回実施 (3年累計で、情報発信9回、教育4回実施)	○
G ガバナンス	● 取締役会の多様性の推進	社外取締役比率50%以上	社外取締役比率50%継続（10人中5人）	○
	● 海外子会社の内部統制構築	全海外子会社が統制自己評価（CSA）の基準を満たす	全ての項目で基準を満たす会社：90% (項目数：181)	△
*1 温室効果ガスに関するGLP2023の目標値及び実績値に関しては、2022年1月に当社の子会社となった高砂製作所の数値は含みません。				
*2 PGREは、Private Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値30%程度を意味します。				
ANRITSU CORPORATION				Financial Results FY2024 1Q 18

(ノート部記載なし)

Appendix : 用語集

3GPP :	3rd Generation Partnership Project
5G NR :	5th Generation New Radio access technology
AR :	Augmented Reality
CPE :	Customer Premises Equipment
CSR:	Corporate Social Responsibility
DD :	Due Diligence
EM:	Environmental Measurement
EMEA :	Europe, Middle East, Africa
EV :	Electric Vehicle
GLP :	Global Long-term management Plan
HAPS :	High Altitude Platform Station
IOWN :	Innovative Optical and Wireless Network
ML :	Machine Learning
NTN :	Non-Terrestrial Network
NW :	Network
O-RAN :	Open Radio Access Network
PCIe Gen6 :	Peripheral Component Interconnect Express Generation 6
PGRE :	Private Generation of Renewable Energy
PQA :	Products Quality Assurance
RedCap :	Reduced Capability
T&M:	Test and Measurement
VR :	Virtual Reality
V-RAN :	Virtual Radio Access Network
WRC :	World Radiocommunication Conference

(ノート部記載なし)



(ノート部記載なし)